



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

首都大学東京

首都大学東京 大学院案内 2012

Humanities / Social Sciences / Science and Engineering /
Urban Environmental Sciences / System Design / Human Health Sciences **TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY**



CONTENTS

人文科学研究科

社会行動学専攻	02
人間科学専攻	03
文化基礎論専攻	03
文化関係論専攻	03

社会科学研究科

法学政治学専攻	04
法曹養成専攻(法科大学院(ロースクール))	05
経営学専攻(研究者養成プログラム)	05
経営学専攻(研究者養成プログラム(ビジネススクール))	05

理工学研究科

数理情報科学専攻	06
物理学専攻	07
分子物質化学専攻	07
生命科学専攻	07
電気電子工学専攻	08
機械工学専攻	08
TOPICS	09

都市環境科学研究科

地理環境科学域	10
都市基盤環境学域	11
建築学域	11
都市システム科学域	11
分子応用化学域	12
観光科学域	12
TOPICS	13

システムデザイン研究科

ヒューマンメカトロニクスシステム学域	14
情報通信システム学域	15
航空宇宙システム工学域	15
経営システムデザイン学域	16
インダストリアルアート学域	16
TOPICS	17

人間健康科学研究科

看護科学域	18
理学療法科学域	19
作業療法科学域	19
放射線科学域	19
フロンティアヘルスサイエンス学域	20
ヘルスプロモーションサイエンス学域	20
TOPICS	21

博士前期課程 修了生進路情報	22
博士後期課程 修了生進路情報	23
専門職学位課程 修了生進路情報	23
平成24年度大学院選考日程	24
アクセスマップ	25

人文科学研究科

Graduate School of Humanities

人文科学研究科長メッセージ

西暦3千年紀に入って早くも10年が過ぎました。この間、グローバル社会には予想を超えた急激な変化が顕在化し、多くのひとびとが、格差と飽和のなかで世界は煮詰まり、今や人類は未曾有の危機に直面していると感じているように見えます。こうした中、社会に寄生する下位システムに過ぎない大学に何かできることがあるのでしょうか。この問いに対し、私たちはあえて「然り」と答えます。何度も存亡の危機を迎えた人類社会は、そのたびごとに自らの足元を見つめ直し、真理の新たな形を模索する中で見事に危機を乗り越えて来ました。真理の探究は、社会のもつ根源的の自己言及システム、言いかえれば無限の自己改良システムといってよいでしょう。ところで、近代以降、このシステムをほぼ独占的に担うようになったものこそ大学ではないでしょうか。大学の使命が真理の探求にある、という手垢のついた言葉の真の意味もまたそこにあります。社会がこの恐るべき窮地を脱することがあるとすれば、それは決してまやかしの威勢のよい掛け声によってではなく、まさに大学が行い、また社会にその場を提供する真理探究の営みによってなのです。



人文科学研究科長
石川 知広

人文科学研究科 概要 | <http://www.hum.tmu.ac.jp/>

人文科学研究科は、半世紀に及ぶ東京都立大学大学院の伝統と学問的蓄積を引き継ぎつつ、さらに新しい分野として、「言語科学」「表象文化論」「日本語教育学」を設置し、また、心理学分野とは別に、博士前期課程に「臨床心理学」分野を設けるなど、時代の変化に即応しながら、人間・文化・社会に関わる極めて広範囲の学問領域をカバーし、充実した教育・研究活動を行なっています。「専攻」は、社会

行動学、人間科学、文化基礎論、文化関係論の4つにまとめられていますが、学生募集単位はもっと専門に分かれた「分野」または「教室」であり、入学した学生諸君は、従来どおりの専門的な研究を行なうことができます。博士前期課程では、9月と2月に入試を行なっており、年に2回の受験機会があります(博士後期課程は2月のみ)。

社会行動学専攻



ゼミ風景

現代社会、とりわけ都市のグローバル化と高度情報ネットワーク化という新たな状況の下で、産業、交通、文化の諸領域において、社会構造とその変動を歴史的・理論的に解明するとともに、他文化・社会との比較研究を行い、国際化や少子高齢化にともなうさまざまな社会的課題に対応しうる政策的研究への期待と要請はますます高まっています。そのような情勢にあって、現場のフィールドワークを中心とする調査研究とそれを裏付ける理論的・歴史的研究の融合・調和は今日急務の課題といえます。本専攻は、それらの課題に学際的に取り組む人材の養成を目標とし、〈社会学分野〉、〈社会人類学分野〉、〈社会福祉学分野〉の3分野において学生を募集します。

人間科学専攻

本専攻は人間諸科学を構成する5つの分野からなります。

〈心理学分野〉は、実験心理学、認知心理学、発達心理学、社会心理学からなり、人間心理の諸側面への研究・教育を行います。博士前期課程では心理学分野は、臨床心理学分野と別分野として募集します。博士後期課程では、心理学分野は臨床心理学と1つの分野として募集します。〈臨床心理学分野〉は、博士前期課程における高度専門家養成コースとして、心理臨床の実践的専門性の習得とともに研究者育成も目指します。〈教育学分野〉は、教育政策・制度、学校教育、社会教育・生涯学習、就学前教育、特別支援教育、多文化教育、比較教育等、人間形成に関わる理論的及び実践的研究・教育を行います。〈言語科学分野〉は自然科学としての言語学、生成文法をコアにしたことばの研究を通してヒトの生得的な言語機能と脳科学的基盤を明らかにする研究・教育を行います。〈日本語教育学分野〉は、母語および外国語としての日本語学や言語教授法、言語接触と言語習得、遠隔教育やマルチメディア教材の開発に関する研究・教育を行っています。



ゼミ風景

文化基礎論専攻



出土遺物を分析

本専攻には哲学、歴史・考古学、表象文化論の3つの分野が含まれています。

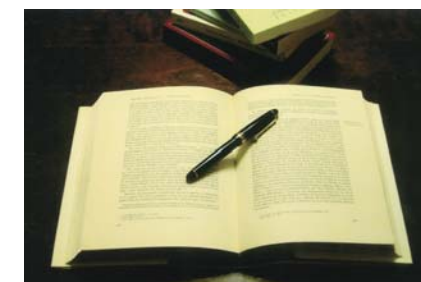
〈哲学分野〉は、哲学と西洋古典学の2つの領域からなり、古代ギリシャから現代英米までの西欧哲学思想の各時代をカバーし、言語や科学といった観点からの世界の構造の理論的考察、価値や規範についての倫理的考察、また数学とも関連の深い論理哲学などの研究を行っています。〈歴史・考古学分野〉は、日本史・東洋史・西洋史・考古学が一体となって、歴史的な思考力を持ち幅広い教養を身につけた職業人・研究者の養成を目指しています。〈表象文化論分野〉は視覚的表現(美術、映像等)を扱うヴィジュアル・スタディーズ、言語表現(詩学や演劇等)を中心とした広義のメディア・スタディーズ、文化のもつ集合作用とその表現形態(フェミニズム、ポスト・コロニアリズム等)を扱うカルチュラル・スタディーズの3つの主題研究から構成されます。

文化関係論専攻

本専攻には、以下の2分野5専攻が含まれています。学生の募集は「教室」単位で行います。

アジア・日本文化論分野 〈日本文学教室〉は、日本語学、神話・伝承文学の表現論、和歌文化論、近世小説の諸問題、近現代文学の分析などを主要な研究テーマとしています。〈中国文学教室〉は、古典から近現代までの中国語学・中国文学ならびに中国の文化・風俗・サブカルチャーや朝鮮・ベトナム・東アジアに至るまで幅広い分野と領域をカバーしています。

欧米文化論分野 〈英文学教室〉は、イギリスとアメリカをはじめアフリカなどの英語圏をも教育研究の射程に入れ、これらの地域の歴史と言語文化に関する幅広い知識の教授を行います。〈ドイツ文学教室〉は、近世から現代までのドイツ・オーストリアを対象とする文学研究・ドイツ語の歴史的研究及び現代ドイツ語の統語論・類型論による言語研究、文化批評・メディア論も含む思想研究、美術史・音楽・身体芸術などの芸術文化研究という4つの領域を核としています。〈フランス文学教室〉は、中世から現代までのフランス語学、フランス語統語論、近世から近代までのフランス文学と思想、フランス現代思想を主要な研究対象としています。



社会科学研究科

Graduate School of Social Sciences

社会科学研究科長メッセージ

50年以上の伝統と研究の蓄積を踏まえ、新しい時代の法律学・政治学・経営学・経済学を牽引する研究者の養成を目指します。各専攻において、教員と院生との比率等、恵まれた研究教育環境を活かして密度の高い教育を行います。

法科大学院においては現代の国民のニーズに応える法律家の要請のため懇切な指導を行い、ビジネススクールにおいては、我が国の経済界をリードする人材を輩出するべく最先端の学問を教育します。



社会科学研究科長
山田 高敬

社会科学研究科 概要 | http://www.tmu.ac.jp/academics/graduate/social_science.html

法律学・政治学・経営学・経済学の領域における高度な研究を基盤に、国や東京都をはじめとする公共団体が抱える課題に具体的提言を提示できる21世紀の法学、政治学、経営学、経済学研究の核を目指します。これにより、国際水準に見合った研究者の育成に取り組むとともに、研究成果を

高度専門職業人養成プログラムにも反映させていきます。また、双方向の教育を重視し、独創的な研究課題の開発、研究領域相互の学問的交流や最先端の研究情報の共有化、研究手法やプレゼンテーション能力の育成等をすすめます。

法学政治学専攻

<http://www.law.tmu.ac.jp/>



政治学総合演習

法学政治学専攻は、法律学分野と政治学分野に分かれ、入試、授業、学位で異なります。それぞれの分野が他大学の専攻に相当すると考えていただいで良いでしょう。共通するのは、優秀なスタッフと恵まれた学習環境です。分野ごとに院生研究室があり、全員に個席が与えられます。教師1人に参加者が平均2~4名の徹底した少人数の演習のうえ、月に一度は研究会形式の総合演習が行なわれます。こうして鍛えられた学生は、博士課程後期に進むと紀要『法学会雑誌』に発表する機会が与えられます。いずれの分野でも学界有数の優れた研究者が輩出されています。各分野についてもっとお知りになりたい方は、パンフレットやホームページなどをご覧ください。

法曹養成専攻 (法科大学院(ロースクール))

<http://www.comp.tmu.ac.jp/law/lc/>

本専攻は、東京をはじめとする大都市の抱える複雑な問題に対して、それを解決する能力を有する法律家の養成を目指します。研究者教員による理論的な授業だけでなく、弁護士、検察官、裁判官などの実務家による授業を提供し、法科大学院の理念である理論と実務をバランスよく学ぶことができます。少人数によるきめの細かい授業を行い、自習室では学生1人1人に固定席を提供し、学生が主体的に勉強できる環境を整えています。法学既修者向けの「2年履修課程」と法学未修者および社会人向けの「3年履修課程」の2つのカリキュラムを設定しています。

成績優秀者に対する授業料減免なども整備しています。

詳しくは法科大学院パンフレットや、ホームページなどをご参照下さい。



模擬法廷

経営学専攻 (研究者養成プログラム)

<http://www.biz.tmu.ac.jp/>



経営学系図書室

首都東京には、我が国を支える主要な大小の企業が集積し、新しい企業を創業していく潜在力があります。それを現実の活力に転換するためには、マネジメントのあり方を探究する第一線の研究者と、組織を動かす高度な能力を有する経営管理者・起業家の養成が欠かせません。本専攻では、これらの社会的要請に応えるために、「研究者養成」と「高度専門職業人養成」の2つのプログラムを提供しています。

「研究者養成プログラム」は、社会的・制度的・歴史的な幅広い視点を持ち、国際的に通用する最先端の領域を切り開くことができる研究者の養成を目指しています。経営学と経済学の広い領域から科目が提供され、高度な研究に取り組むことができます。

経営学専攻 (高度専門職業人養成プログラム(ビジネススクール))

<http://www.biz.tmu.ac.jp/>

「高度専門職業人養成プログラム(ビジネススクール)」では、東京都の産業育成、経済の活性化に貢献することによって、国家レベルの産業競争力を強化・発展させていく人材を養成します。すなわち、戦略的な思考能力と高度な経営管理に関する知識を有し、国際的に活躍できるビジネス・リーダーと、新しいビジネス・モデルを構想し、それを実現する起業家を養成し、東京都における新しいビジネスの創出を促進します。また、いわゆる文系の人材だけでなく、大学の学部で経営学・経済学を学ばなかった理工学系出身の社会人学生を積極的に受け入れ、そのキャリア開発と新産業・新事業の育成に積極的にかかわっています。

授業は、東京都庁舎の新宿サテライトキャンパスで平日夜間と土曜日に開講されています。



PCルームでの授業風景

理工学研究科

Graduate School of Science and Engineering

理工学研究科長メッセージ

理工学は、論理的な思考と系統的な手法によって、自然の不思議を明らかにしたり、自然界には存在しない新しいモノや仕組みを作り出していく学問分野です。私たちは様々な電子情報機器で便利な日常生活を送っています。カーナビに、アインシュタインの相対性理論が役立っていることを知っていますか？衛星を用いて地球上の現在位置を調べていますが、1メートルの精度で位置を特定するためには、物理学における相対性理論による補正が重要です。インターネット上における情報の機密保持、改ざん防止の方法として暗号技術が用いられていますが、その暗号には数学の素因数分解などの整数に関する理論が使われています。今日では、基礎科学上の発見が即時に応用され、一方では、最先端の技術を駆使して新しい科学が切り拓かれています。

首都大学東京大学院理工学研究科は、数理情報科学、物理学、分子物質化学、生命科学の4つの基礎科学分野と、電気電子工学、機械工学の2つの基幹工学分野からなり、21世紀の様々な科学・技術の課題にチャレンジしています。大学院理工学研究科は、学部理工学系の6つのコースと直結し、学部から博士後期課程まで連続したきめ細かな一貫教育と質の高い専門研究を可能にしています。

理工学研究科は、文部科学省の「組織的な大学院教育改革推進プログラム」を2つ推進しています。また、文部科学省の「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」も推進しています。最先端研究を行うことにより、活発な教育研究活動を展開している理工学研究科、理工学系で、次世代を担う皆さんが学んでくれることを期待しています。



理工学研究科長
岡部 豊

理工学研究科 概要 | <http://www.se.tmu.ac.jp/>

理工学研究科では、6つの専攻における体系的・総合的基礎知識の上に立ち、課題発見・課題解決力を育成するための特色ある教育プログラムを実践しています。特に、隣接分野の履修を可能とし、異分野経験の機会を積極的に提供することを通して、広い視野をもつ独創的な研究者や高度な専門家を育成しています。研究活動においては、世界のトップレベルにある基礎的・基盤的研究や、その成果を基に应用展開を図ろうとする研究の一層の推進に努め、国が支援する大きなプロジェクト研究も数多く進

めています。さらに、新規領域を開拓する研究や若手教員が進める萌芽的研究などを積極的に奨励・支援しています。また、科学や技術の面白さを啓発するために、小・中・高校生を対象とした各種企画や、高等学校・中等教育学校などとの連携を図った活動も展開しています。さらに、理工学関連分野における高度な継続教育(理数科教員のリカレント、社会人博士など)のニーズを把握し、効果の高いプログラムを実施しています。

数理情報科学専攻

<http://www.se.tmu.ac.jp/mis/>

本専攻は代数学・幾何学・解析学・情報科学の各分野の体系的理論の習熟と課題解決型テーマの相互展開と融合をめざして現代数理科学の最先端研究へ誘うことを目的としています。基盤数理科学・広域数理科学・情報数理科学という新たな構成を取り

入れ横断的連携コアカリキュラムを有機的にクロスさせて教育・研究を遂行していきます。この研究体制のもとで数学的思考の訓練を積み重ねることにより高度な論理・情報処理能力をあわせ持った独創性に秀でた研究者や教育者の育成や柔軟性に富む人材を広く輩出していきます。自然科学をはじめ諸学問の礎としての数学の特性をふまえると同時に、本理工学研究科の特色を生かし電気電子工学、機械工学の応用面の分野と連携しあい、幅広い視野と深い専門知識の修得を目指します。また、本来の総合的理学系のメリットを生かし物理学、分子物質化学、生命科学と教育研究面での交流を通じて、現代社会が抱える緊急課題に挑戦します。

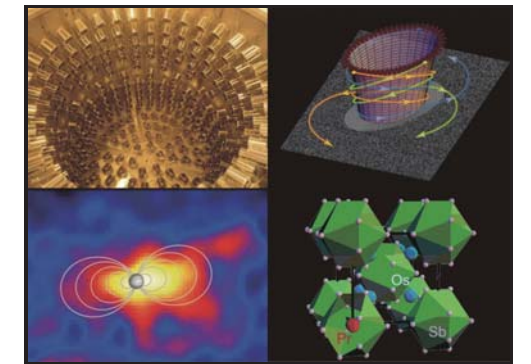


セミナー風景

物理学専攻

<http://www.se.tmu.ac.jp/phys/>

物理学は自然の根源を追究し、そこにひそむ法則を探るとともに、自然界や物質から得られた知識を応用する学問です。本専攻では、「素粒子宇宙理論」、「物性基礎理論」、「粒子宇宙物理」、「物性物理」の4つの研究グループ体制をとり、超ミクロな素粒子から日常的なサイズの物質系、また超マクロな宇宙までの広範な系を対象として、理論・実験の両面から研究教育を推進しています。各研究グループは、グループ全体の協力体制を強化しつつ、テーマごとにサブグループを構成し研究教育を実施しています。さらに、理工学研究科の他専攻や、外部の研究機関とも密接に協力しながら、活発な研究を展開していることも特徴です。



物理学が対象とする様々な世界

分子物質化学専攻

<http://www.se.tmu.ac.jp/chem/>



宇宙で採取したサンプルを分析し、太陽系の起源を明らかにする。Genesis計画のホームページから転載(<http://genesismission.jpl.nasa.gov/>)

化学とは、分子構造の変換を利用して新たな物質を創成し、その物質の構造、性質、反応性を探求することを目的とした自然科学の中核を成す学問です。分子物質化学専攻の名称はこの理念に基づいています。一方、現代化学の応用範囲は化学材料や電子デバイス材料の開発のみならず、宇宙、生命、環境問題など多様な分野に幅広く跨がっているため、本専攻では3つの研究分野、具体的には無機・分析化学系、有機・生物化学系、物理化学系を設定し幅広い学問領域を支えています。また、大学院においては、深い専門性に立脚して化学の最先端にある高度な知識を身につけ、同時に、専門を越えた幅広い総合的な判断能力をもつ化学研究者・技術者を育成します。

生命科学専攻

<http://www.biol.se.tmu.ac.jp/>

首都大学東京生命科学専攻の最大の特徴は、生物学・生命科学の多様な分野の研究を行っている教員がそろっていること、すなわち、教員の多様性が非常に高いことです。遺伝子、細胞(遺伝学、細胞学、生理学、生化学等)から、集団、種、生態系(生態学、系統分類学、進化生物学等)まで様々なレベルの、そして材料も微生物から、高等動物、高等植物まで、様々な生物を用いて研究を行っている教員が本専攻にはいます。

教員の多様性が高いことは、本専攻の大学院生が生命科学の多様な分野をそれぞれの専門家から学べることに直結します。それに加えて、大学院生が生命科学のどのような分野に興味を持ったとしても、それに何らかの接点の見いだせる教員がいることでもあります。生物学・生命科学に興味があっても、具体的に自分がどのような研究や勉強をしたいのかがよく分からないという人も、必ず、自分に合った何かを見つけることができます。さらに、本専攻のもう一つの特徴は、自主的に学び、行動することを推奨し、そのためのカリキュラムも用意していることです。



ニワトリの胚

電気電子工学専攻

<http://www.eee.tmu.ac.jp/>

21世紀の工学は資源の有限性と環境負荷の低減を意識し、持続可能な発展を考慮しつつ、新たな技術開発を着実に進めなければなりません。電気電子工学は、エネルギー、エレクトロニクス、情報通信に代表される、現代社会を支える基盤技術であると同時に、先端・フロンティア技術でもあります。電気電子工学の果たす役割はますます重要なものとなるでしょう。

このような背景を踏まえ、本専攻では、①電気電子工学分野に関する体系的・総合的知識基盤を持つ創造的な技術者・研究者の育成、②電気電子工学分野および理工融合型先端分野における知の創造・体系化・蓄積・発信を基本理念としています。そして、電気・磁気的現象に立脚した「機能発現」、「機能構成」、「機能評価・応用」の3つを電気電子工学における学問体系の主要な柱と位置づけ、これらの体系的・総合的知識に基づく問題解決・発見能力、リーダーシップ、さらには「工学技術を通じて人類の幸福に貢献する」という高い倫理観・使命感を兼ね備えた工学技術者・研究者の育成を目指しています。



大学院新入生ガイダンス風景

機械工学専攻

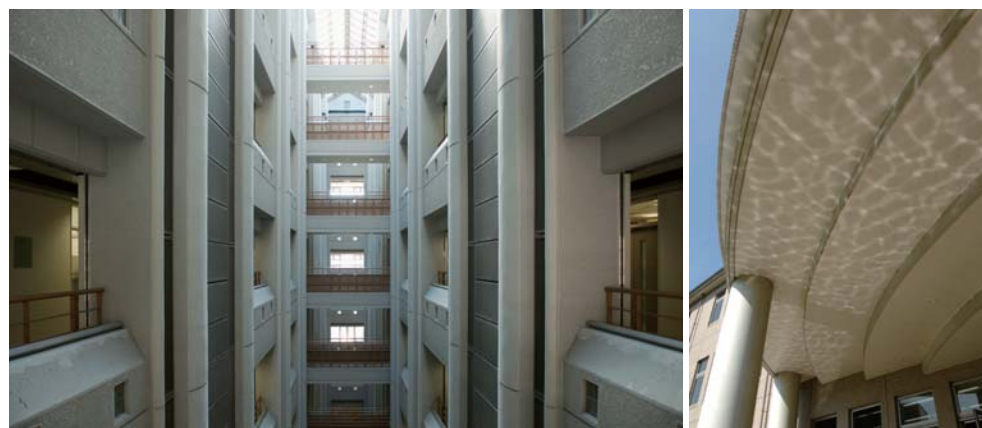
<http://www.se.tmu.ac.jp/mech/>

資源が乏しい日本では、ものづくり産業は重要な位置を占めており、世の中の状況が目まぐるしく変化の中で、環境に柔軟に対応しながらダイナミックに成長し続けなければなりません。このような社会的要請に応えるため、機械工学専攻では、「ものづくり」の先端分野で活躍できる、次世代を担う創造的な人材、高度な専門性を有した人材、国際性やリーダーシップを備えた人材の育成を目的としています。



大学院生 - 親睦会集合写真

機械構造物性工学、熱流体工学及び機械システム工学の3研究分野を設け、①確固たる機械工学の基礎知識に裏付けられた問題解決能力、②「機械工学の基盤となる基礎的研究課題」あるいは「機械工業の発展に寄与する応用的研究課題」を設定して研究を進め、論文にまとめるまでの基礎的研究能力、③国際会議等への参加、国外大学や企業との共同研究活動等を通して得られる国際的視野及びコミュニケーション能力の修得を目指します。特に少人数教育の中で、高度な教育研究指導が受けられる優れた教育研究環境を提供しているところが本専攻の特色です。



TOPICS

分子物質化学専攻 橋本 健朗准教授 IBM Faculty Award受賞

分子物質化学専攻の橋本健朗准教授が、「Advancing Computational Chemistry as a Powerful Partner with Macro Simulations and Experimental Studies」の業績で2009年のIBM Faculty Awardを受賞し、昨年(2010年)4月14日にその授賞式が行われました。

IBM Faculty Awardは、卓越した研究成果を挙げた世界中の優れた大学教員に贈られる国際的な賞で、2009年は我が国からは4名の教員が受賞されました。



TOPICS

2011年版 論文引用度ランキング 9分野でランクイン!!

2010年4月発行の「2011年版大学ランキング」(朝日新聞出版)で、トンプソン社ISIによる2004-2008年における論文引用度に関する国内ランキングが発表されました。論文引用度指数は、分野によって変わりますが、「総合」で、首都大学東京は第10位、国立遺伝学研究所、基礎生物学研究所などの研究所を除くと、大学としては第6位でした。分野別について見てみると、首都大学東京は20分野中9分野でランクインし、コンピュータ科学4位、物理学11位、宇宙科学14位、地球科学11位、化学7位、生物学・生化学1位、動植物学7位、生態学・環境科学8位と、8分野が理工学研究科関連の分野でした。なお、9分野でランクインしたのは、東京大学、東北大学、京都大学、九州大学、大阪大学に次いで、第6位です。

都市環境科学研究科

Graduate School of Urban Environmental Sciences

都市環境科学研究科長メッセージ

都市環境科学研究科は、都市環境の向上に資することができる研究分野(学域)から成り立っています。各研究分野の特徴を簡単に記すと次のようになります。分子応用化学域は、多くの内外研究者が引用する英語論文を多数、国際誌に発表しています。文部科学省の21世紀COEの研究拠点に指定されたことのある建築学域は、東京都との連携事業「大都市研究リーディングプロジェクト」に取り組んでいます。都市基盤環境学域も東京都との連携事業では以前から多くの実績があります。都市システム学域は、文理融合型の都市研究が特徴です。地理環境学域は、地理学の分野では全国でも有数の規模を誇っています。観光学域は、文系中心の日本の観光研究の中で、理系出身の教員が大多数を占める異色の存在です。このように各研究分野の特徴は様々ですが、分野を問わず、多くの教員は外国での研究集会において発表したり、海外に調査研究に出かけています。そうした国際的な研究活動に皆さんも自然に溶け込み、私たちとともに、都市環境研究の国際的研究拠点づくりに取り組もうではありませんか。



都市環境科学研究科長
杉浦 芳夫

都市環境科学研究科 概要 | <http://www.ues.tmu.ac.jp/>

都市環境科学研究科では各分野において世界をリードする国際的研究活動を展開しています。都市環境を構成する「人間」「物質」「エネルギー」「情報」「人工物」「自然」の各要素について、観測と解析を基礎にその相互作用を明らかにします。任意の空間・時間における各要素の変動予測・設計・制御が可能となる方法論を開発することに

より、持続して発展する都市を構築しうる科学体系としての都市環境科学の確立を目指します。

都市環境の構成要素に関わる専門的な研究領域とそれらが融合した新しい領域を対象に、先進的な研究を推進し、課題の発見・解決によりメガシティの将来を先導する人材の育成を目指します。

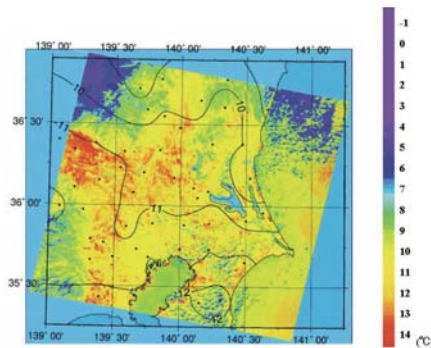
地理環境科学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/>

地理環境は、自然環境と人工環境とからなり、都市スケールから、地方スケール、国土スケール、大陸スケール、地球スケールにいたるまで、さまざまな空間的広がりをもっています。地理環境科学は、過去から現在に至る地理環境と人間のダイナミックな相互関係について、特定の一つの空間スケールで研究するだけでなく、異なる空間スケールで起こっている現象相互の関連性を視野に入れながら解明することを目指しています。

地球温暖化や経済のグローバル化など、世界的規模で進行する現象をローカルな地域で研究するとき、この視点はとくに重要になります。空間スケールの違いによる地理的現象の発現形態やメカニズムの相違、および同一空間スケールにおける地域差に焦点を当ててきた従来の地理学に、こうした新しい視点を加えることにより、都市や環境の研究をさらに深化させることができます。

地理環境科学域は地形・地質学、環境変遷学、気候学、地理情報学、環境地理学、都市・人文地理学の6研究室で、これらの課題に関わるテーマに取り組んでいます。



関東地方の気温分布(等値線)と地表面温度の分布(カラー)

都市基盤環境学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/civil/>

都市基盤環境学(Civil & Environmental Engineering)は、その英語名が示すとおり、市民のための学問であり、「美しい国土・都市の建設」、「安全にして安心出来る生活環境の構築」、「豊かな社会基盤の形成」を目的としています。その役割は、社会基盤の計画・構築・運用・維持管理、都市環境、自然環境の維持・保全、さらに人々の生命や資産を災害から守る防災など広範囲に及びます。

本学域では、「社会基盤」、「環境システム」、「安全防災」の3つの観点から、都市基盤環境学について体系的に研究しています。そして、研究・教育活動を通して、主体的に課題を発掘し、それを解決してゆくことができる人材を育成しています。国内外の研究機関との連携研究や共同講義も積極的に行われていて、多くの研究成果が東京都をはじめ、広く社会に還元されています。東京は世界でも屈指の大都市です。東京都が持つ課題を克服してゆくことは、東京都に貢献するだけでなく、他の地域や世界の国々に対して常に先駆的に情報を発信することにも繋がります。



建築学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/aus/>



既存ストックの改修にかかわる耐震補強の実験

建築学域では、「持続可能社会における安全で快適な建築都市空間を美しく構築する」ための研究の推進及びそれを担う人材育成を目的とします。建築ストックを適切に維持管理しつつ安全・快適・魅力的かつ環境負荷の少ない建築都市空間を創出するための研究、及び今後顕在化する建築物の諸問題に対する広範囲な研究を行い、学術及び社会に貢献します。また、建築に関する幅広い理論や技術を修得し、建築的問題を解決する能力及び高い専門性を持つ人材を育成します。

本学域では、建築計画・都市計画、建築歴史・意匠、建築生産・材料、建築構造、建築環境を研究分野とする「基盤研究コース」で、問題解決のための先進的かつ実践的な研究に取り組みます。また「プロジェクト研究コース」では、都市や建築の抱える複雑な問題を把握し解決できる実践能力の養成を目的に、個々の専門分野に通暁した複数の教員がプロジェクトチームを組織し、具体的な研究課題を通して指導を行います。修了要件を満たすと、修士(工学、建築学)、博士(工学、建築学)の学位を取得できます。

都市システム科学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/cus/>

本学域は、人間の活動と都市の空間的・社会的環境の関係を科学的に追究することによって、成熟社会にふさわしい秩序ある良好な都市環境を創出すべく、研究の推進と人材の育成に携わっています。都市に関する学際的なアプローチを可能にする、多様な専門分野の教員が集まっています。

1994年に全国で唯一「都市科学」の学位を授与する研究科として発足した、東京都立大学大学院都市科学研究科を受け継いでいるのが現在の本学域です。これまで、244名の修士(都市科学)と44名の博士(都市科学)が誕生しています。

学際的な学生が集まっており、理工学のみならず社会科学、人文科学、保健学等の分野から幅広く出願があり、社会人や留学生も多く在籍します。入学者は各自の学部時代の専門をベースとしながらも、本学域での教員や同僚との交流を通じて、都市を見つめる複眼的な視点を自ら養っています。

修了後の就職先も公務員、一般企業社員、計画コンサルタント、都市に関する研究機関の研究者、まちづくり諸団体の専門職員、大学教員等多方面に及んでいます。



防災まちづくりのワークショップ / 都市システム科学域では、このような地域に密着した実践的研究から、都市空間・都市社会の理論的研究まで幅広く行っています。

分子応用化学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/apchem/>

本学域では、物質循環、資源・エネルギー及び環境問題の解決を計る「環境調和プロセス」の実現を目指して、社会において分子応用化学の先導的な役割を果たし得る創造的な技術者・研究者の養成を目的としています。特に、物質やエネルギーが高密度に集積した都市における諸問題を解決するために必要となる化学的な基礎学問の習得を目指す教育を展開しています。また、本学域では自主性を重んじ、問題の解決能力に加えて問題の発見能力を養うことに重点を置いた研究教育を行っています。大気化学、分析化学、高分子化学、有機化学、生化学、錯体化学、無機化学、電気化学、化学工学、界面化学、光化学、触媒化学などの研究分野をベースにエネルギー、ライフサイエンス、環境、ナノテクノロジーをキーワードとする世界最先端の研究を通じ、幅広い視野を持った21世紀をリードする技術者・研究者の育成を目指します。国内外の著名な研究者を招いたコロキウムも毎年10回程度開催し、世界最先端の研究に触れる機会を数多く提供しています。



分子も見分けることが可能な最新の透過型電子顕微鏡

観光科学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/>

観光科学域では、従来の観光学に、地理学・生態学などの理学的方法や都市計画・歴史的遺産の保存や活用などの都市工学の方法、また、観光地のデータベース作成や情報発信などの情報学的手法を導入した、全く新しい「観光科学」を学ぶ大学院です。学域

には主として3つの領域があり、一つめは地域の自然環境資源の保全と適正利用を考える自然ツーリズム領域、二つめはまちづくりを中心にして都市の文化を創成し、建築や社会基盤整備を考える文化ツーリズム領域、三つめが観光における政策形成や情報通信を研究する観光政策・情報領域です。本学域ではフィールドワーク、プロジェクト・ベースト・ラーニングなどに重きを置きながら、観光を地理学、生態学、環境学、都市工学、社会学、情報工学、政策学などの学際的かつ科学的なアプローチで研究することを志向しています。また、研究と並行して行政、NPO、企業でのインターンシップに参加することにより、ECO-TOPプログラム(東京都認定の、自然環境分野で活躍する人材育成プログラム)修了の証明書を得ることができます。



野外実習の様子



TOPICS

学域を越えて共に学ぶ 学域横断型講義が開講

2010年度より都市環境科学研究に所属する学生が学域を越えて共に学ぶことを目指した学域横断型講義が開講されました。2011年度は4つの横断型講義が開講されています。



商店街の空き店舗を改造したスタジオにおける演習風景(郊外都市の実践的研究2)



地震被害調査(都市の地震防災)

都市大気環境研究の最前線

都市大気環境の悪化は多様な要因が複雑に絡み合うことによって生じている。①汚染物質の多様化と排出量の増加 ②ヒートアイランド現象による都市の高温化 ③高層構築物による都市換気機能の低下、などが問題となっている。

本講義は、大気化学、都市気候学、建築工学、環境工学および健康影響評価の4分野の専門家による最新の研究成果を紹介する。

郊外都市の実践的研究 1

この授業では、郊外都市地域の社会的変化について、都市社会学、地理学を中心としたアプローチによって実証的に明らかにすると同時に、社会調査、地域調査の手法を身につけることを目的としている。2010年度前期には立川市高松町地区・曙町地区において住民の生活状況や定住意向を尋ねるアンケート調査を実施した。

郊外都市の実践的研究 2

この授業では、郊外都市地域の都市問題について、都市計画、建築、都市社会学、地理学を中心としたアプローチから明らかにし、それを解決する具体的な政策やプロジェクトを立案する手法を身につけることを目的としている。2010年度後期には立川市において、農、アート等の視点からプロジェクトを企画した。

都市の地震防災

都市の地震防災を考えるためには、構造物の耐震性だけでなく、その構造物が立地している地点の地盤特性、地盤特性と地震被害との関係、さらには、対象地域において今後想定される地震は?といった広域的かつ長期的な地質環境の把握も重要である。本講義では、地形・地質学、探査工学、土質工学、耐震工学、トンネル工学の分野から都市の地震防災を多角的にとらえる。

システムデザイン研究科

Graduate School of System Design

システムデザイン研究科長メッセージ

システムデザイン研究科の5つの学域は、多分野間の連携を重視しながら、高度な知的社会を支えている様々なシステムを研究教育しています。研究領域は、人と機械が絡んだ多様な知的システム、航空宇宙機に代表される高信頼性システム、インフォマティクスや通信システムなどの基盤科学技術から、工学の経営システムへの応用や工学と芸術の融合によるクリエイティブなシステムデザインにまで及びます。

本研究科では、(独)宇宙航空研究開発機構および(独)情報通信研究機構との連携大学院協定により、それぞれの研究機関で先端プロジェクトに絡んだ研究を行うことも可能です。海外の大学との共同研究も活発で、北米、ヨーロッパ、アジアの多数の大学と研究交流協定を結んでおり、その交流ネットワークを利用した国際的な視点での人材育成を目指しています。また、博士後期課程には、アジアの諸都市からの留学生が多数学んでおり、今後ますます重要性が増すアジアとの交流が盛んなのも特徴です。本研究科の修了生が世界の第一線で活躍されることを期待いたします。



システムデザイン研究科長
浅井 雅人

システムデザイン研究科 概要 | http://www.sd.tmu.ac.jp/postgraduate/about_postgraduate

本研究科は、ダイナミックな産業構造を背景とする高度な知的社会の構築、諸システムの設計、ならびに総合的観点からの問題解決が可能な人材育成を目指して創設され、システムの設計、実装、運用といったデザインを、機能と感性という2つの側面から総合的に研究教育する日本でも極めてユニークな大学院です。

研究科を1つのシステムデザイン専攻で構成し、ヒューマンメカトロニクスシステム、情報通信システム、航空宇宙システム

工学、経営システムデザイン、インダストリアルアートそれぞれの学域が配当する科目を横断的に選択履修できるカリキュラム体系とすることで、異分野統合を実現しています。これにより、豊かな発想と想像力を有する人材を育成し、学位の品質を保証しています。また、研究プロジェクト演習やインターンシップを通して、実践的に実社会のニーズを捉える能力を養います。さらに、全学生に半期に一度の複数教員による公開期末評価を受けることを義務付けており、その教育水準を保証しています。

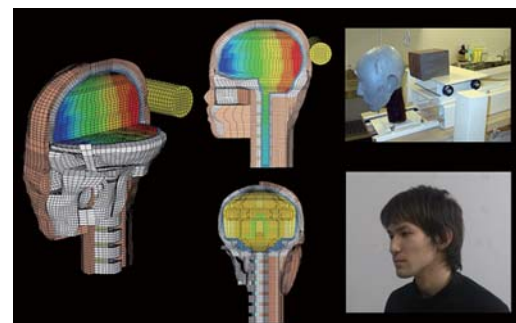
ヒューマンメカトロニクスシステム学域

<http://www.sd.tmu.ac.jp/postgraduate/2779>

メカトロニクス工学とは、「メカニクス(機械)」と「エレクトロニクス(電子)」を組み合わせた技術であり、生活と産業を支える工学として発展を続けています。しかしながら、いま私たちが直面する課題は、都市・環境問題、高齢化社会と福祉など、多様で複雑な問題であり、これらを解決するためには、人間を知り、人間を守り、人間を支援する工学とシステム統合化の技術が必要になります。

本学域では、機械工学、電気電子工学、ロボット工学などメカトロニクスの基盤をなす重要な工学を学び、最先端分野で活躍する人材を育成します。また、これらの学修を通じて、人間を中心にとらえた工学システムを構築する素養を身につけることを目指します。

カリキュラムは、「知的システム制御」、「知的システムデザイン」、「生体システム工学」、「機能デバイス」の4分野に整理されており、研究指導と並行して、プロジェクトベースラーニングにより、関連企業・組織の協力の下、工学課題を解決する実践的な取り組みが行われます。



衝撃を受ける頭部の損傷の研究のための様々なモデル。有限要素モデル、物理モデル共に人の頭部を計測して精巧に再現されています。

情報通信システム学域

<http://www.ics.sd.tmu.ac.jp/>

現代においては、情報分野と通信分野は一体として発展しており、これらの分野を融合した教育研究が強く必要とされています。本学域では情報の獲得・伝達・加工・管理のための基盤技術としての「情報システム分野」、情報の円滑な流通を実現するための基盤技術を扱う「通信システム分野」の2分野を情報通信インフラストラクチャと捉え、その上に高付加価値の情報処理の実現を目指す「メディア情報処理」が成立するといった階層的な関係を重視する教育研究を目指しています。

また、産業界や官界、教育界からは、情報通信技術に関する最先端の研究・教育を推進しうる優秀な人材の育成が強く要請されています。そこで本学域では、情報通信関連分野の高度な専門教育と先端的な課題研究を通して、大都市東京における諸問題解決の鍵を握る情報通信システムについての最新かつ実践的な知識と研究開発能力を身につけることができるようカリキュラムを構成することで、ダイナミックな産業構造を有し、急速な進展を続ける高度な知的社会の構築に貢献できる人材の育成を目指します。



レーザーを用いた大気環境計測の実験

航空宇宙システム工学域

<http://www.aerospace.sd.tmu.ac.jp/>



最先端衛星推進機の実験準備風景

航空機・宇宙機の要素技術やシステム設計技術ならびに宇宙開発利用に関する総合工学としての航空宇宙工学の研究教育を通じ、国際的な視野と高い信頼性を要求されるシステムとして捉えうるエンジニアリング・マインドと課題解決力を持ち、航空宇宙産業のみならずさまざまな先端産業分野で活躍できる技術者、研究者を養成します。

研究教育分野は、飛翔体の飛行や推進の基礎となる「航空宇宙流体力学」、航空宇宙用の複合材料や高温耐熱材料の力学から微小重力環境での材料プロセスまでを含んだ「航空宇宙材料工学」、航空機・ロケットなどの「推進システム工学」、宇宙機器や構造物のダイナミクスや振動制御を扱う「航空宇宙構造制御工学」、リモートセンシングや衛星利用の航法システム、宇宙環境工学など宇宙の実利用を重視した「宇宙利用工学」の5分野からなります。更に、連携大学院客員教授(独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人情報通信研究機構)も加わり、最新の研究施設を利用した大学院教育を行なえる体制を整えています。

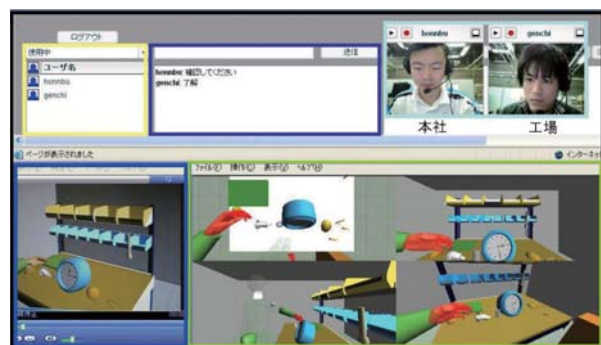


経営システムデザイン学域

<http://www.sd.tmu.ac.jp/~mse/>

本学域の特色は、従来の管理技術に加えて工学と経営の融合を考え、特に、人とシステムのインタフェースと経営を取り巻く社会への関心に充実を図り、より総合的な観点からのシステム設計のための教育と研究を行う点にあります。

理工系に属する学域として、経営サイドではなくあくまで経営工学サイドからシステム構築の根幹に関わることを目指しています。そのために本学域では3分野を構成し、①物の開発・製造から物流までを統合的に捉えた経営システム設計「マネジメント工学分野」、②人間の特性に配慮した生産システムや福祉システム設計「人間工学分野」、③情報社会と人との結びつきを考慮したシステム設計「社会システム工学分野」に関わる研究を行っています。これらを通じて、人や都市社会の特性に配慮した総合的な観点から経営システムの設計・管理を担う人材を育成することを目的としています。



複数人による作業手順書作成のための遠隔作業計画システム

インダストリアルアート学域

<http://industrial-art.sd.tmu.ac.jp/>



人間工学・スペースデザイン合同授業
実物大モックアップによる視線誘導実験

現代の激しい社会の変化、激しい価値観の変化、激しい技術の革新の波の中で、これらの変化に迅速に対応でき時代を先導できる柔軟で斬新な発想力を持ったデザイナーが強く望まれています。本学域では、この社会の要請に応えるため、新しいアプローチ、新しいコンセプト、新しい枠組みのデザインを創造・研究・実践し、さらには社会の枠組みの変化さえ先導しようと発想する新しいタイプのデザイナーの育成をめざしています。

そのために、本学域では、工学的側面から社会文化的側面に至る広範囲なデザイン領域を横断的複層的に研究対象として扱っています。本学域の構成は、交通機関・工業製品・空間などのデザインや人間工学から人と環境双方に役立つものづくりを展開する「プロダクトデザイン分野」と、先端メディア・テクノロジーや芸術活動を通じて新たな感性コミュニケーションを創出する「メディア創生分野」の2つの研究分野から成り、両分野が互いに連携することによってさらに大きなシステムを研究対象としていきます。



将来の技術者、クリエイター育成にむけ 国内外の企業、大学と連携した イベント開催

TOPICS

システムデザイン研究科は、大学院教育において国内外社会との接点を強化し、多様な産業の芽を創出可能な技術者、クリエイターを育成することを目的に様々なプログラムを実施しています。

システムデザイン(SD)フォーラム

教育・研究の場を広く外部機関にも求め、教育段階から社会のニーズに適応できる人材育成を図るため、平成22年11月2日(木)に日野キャンパスにおいてSDフォーラムを開催しました。本フォーラムでは、福祉工学に係る研究室の紹介(写真1)及びロボット展示等のほか、特別講演として小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーであるJAXA川口淳一郎教授の講演会(写真2)等を実施し、学生の関心を集めるとともに、地域の方々に開かれたキャンパスとして、社会への貢献を行っております。



(写真1) 研究室紹介



(写真2) JAXA川口教授による講演

システムデザイン国際セミナー(ISSD)

平成20年度より海外協定校を中心に教員・学生を日野のキャンパスに招聘し実施していた国際セミナーを、平成22年度では、より多くの可能性を追求するため、開催形態を変更して実施しました。

海外大学を会場として、中国中山大学の協力を得てTMU ISSD 2010 in SYSUの開催(写真3)、また国際学会の協力の基に、特別セッションとしてISSD 2011 in IWAIT 2011(ジャカルタにて開催)を開催(写真4)しました。両セミナーとも、海外での英語プレゼン経験、交流など参加学生から貴重・有益な経験として高い評価を受けております。



(写真3) TMU ISSD 2010 in SYSU



(写真4) ISSD 2011 in IWAIT 2011

人間健康科学研究科

Graduate School of Human Health Sciences

人間健康科学研究科長メッセージ

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の健康に関する研究を行っています。特に首都大学東京の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は本研究科の最重要課題です。これは高齢者に優しい社会の実現だけでなく、高齢者まで含めたあらゆる世代の人々が、自分の能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指そうとするものです。これに向けて、幅広い分野の理論と実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤として、それらを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われています。健康に関する様々な分野における「高度実践専門家」ならびに「先端研究者」の育成を目指しています。



人間健康科学研究科長
木下 正信

人間健康科学研究科 概要 | <http://www.hs.tmu.ac.jp>

人間健康科学研究科は、看護科学、理学療法科学、作業療法科学、放射線科学、フロンティアヘルスサイエンス（以上は荒川キャンパス）、ヘルスプロモーションサイエンス（南大沢キャンパス）の6つの学域から構成され、生化学・生理学的手法を用いる基礎的研究から、臨床研究やフィールド調査に至る幅広い研究に対応しており、さらに昼夜・土日も授業や演習を開講するなど現場でのニーズを反映していることが特徴です。

看護科学域

大都市で生活する人々及び地域の「健康」をテーマとし、看護科学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指しています。

博士前期課程では、看護倫理・管理学分野（看護倫理学、看護管理学）、育成期看護学分野（母性看護学、小児看護学）、成熟期看護学分野（成人看護学、高齢者看護学）、広域看護学分野（地域・在宅看護学、地域看護活動評価論、地域精神看護学）の分野において修士論文コースを設けています。さらに、高齢者看護学、地域・在宅看護学、小児看護学の分野においては、専門看護師コースがあります。また、博士後期課程では、看護科学と保健医療分野におけるリーダーとなる人材を育成しています。

本学域の特色は、看護倫理学の高度な専門的知識の創出と判断能力の育成、地域及び医療機関における母性、小児、認知症高齢者等へのケアに関する理論と方法の開発、地域住民や学生ボランティアのエンパワメント支援、行政と連携した看護ケアシステム開発に必要な能力の育成、などのプログラムがあることです。



ゼミ風景

理学療法科学域

本研究科は身体機能回復理学療法学分野（徒手理学療法学領域・内部障害理学療法学領域）、運動障害分析理学療法学分野（小児運動障害領域・成人運動障害領域・高齢者運動障害領域）、地域理学療法学分野、先端リハビリテーション科学分野の4つの研究分野をもち、活発な研究活動を展開し、理学療法科学の創造力と応用力を備えた高度実践専門家や研究者を育成します。

健康・障害に関する理学療法の知識・技術と科学的思考能力を体系的・総合的に学び、発達や慢性疾患・生活習慣病などによる身体の障害予防や機能回復などに関する高度な理学療法専門技術の研究開発、地域における人々の健康づくり・社会参加の促進などに関する研究を進めていきます。また、昼夜開講制の採用により、昼間には理学療法士などの医療職として現場での経験を蓄積し、夜間にはそれらを生かす理学療法科学研究を進めることができるため臨床と研究の有機的展開を図ることが可能です。在籍する大学院生の多くは、その研究成果を国内だけでなく国際学会にも積極的に参加し発表を行っています。



修士論文最終発表会

作業療法科学域

作業療法科学域では、各分野で理論と実践的知見に基づいた作業療法の探索を図り、新たな知見を得、独創性を発揮できる人材を育成します。

〈身体障害作業療法学分野〉身体障害者を対象に作業療法学、脳神経学、生活環境学、リハビリテーション学等に基づき、人と作業と環境の関係、生活諸活動と社会参加の為の総合的評価や治療支援のあり方を深めます。対象者を生活障害の視点で捉え、有効な作業療法を自ら実践・研究し、生活福祉機器の開発や環境整備も進めます。〈精神障害作業療法学分野〉精神障害者の症状や活動低下を分析し、機能回復、障害予防のための理論と技術を研究し、QOL実現のために精神医学、作業療法、心理学的分析に必要な知識と技法を探索します。児童～老年期全ての年代に、治療仮説に基づく評価法や治療法、社会参加に至るプロセスを研究します。〈地域作業療法学分野〉地域に生活する人々の作業療法を実施するための研究を行います。特に作業行動とその概念的実践モデルである人間作業モデル(MOHO)を中心に、理論と実践を結びつける研究を深めていきます。



ゼミ風景

放射線科学域

放射線学の専門知識と最新技術の知見を教授することによって、①創造的かつ科学的思考に基づいた高度放射線専門職の育成、②専門領域における高度な知識、能力を有するのみならず、他領域の研究成果を理解し、それらを統合することによって先端医療技術を開発できる人材の育成を目指します。

大学院前期課程では保健科学系学部は勿論のこと、理工系学部・大学院出身者等の入学を視野に入れた統合的カリキュラムを採用しています。また、医学物理士認定機構認定の医学物理士の養成も目指しています。

授業は最近の研究動向や教員の研究成果に基づいた講義・演習で構成し、絶えず最新の知見を教授するように努めます。

施設面では、X線CT(MDCT)、MRI、CR、フラットパネルディテクタ(FPD)およびSPECT装置などの診断装置、非密封RI施設やリニアックなど放射線治療装置などがキャンパス内に実験・研究用として備えられており、充実した実験・研究が行われています。それらを背景に診断、治療等に関する先端的医療技術及び医用画像処理技術・放射線計測法の開発を目指します。



最新鋭の放射線治療装置

フロンティアヘルスサイエンス学域

保健科学・医学の諸課題に、生命科学・神経科学・社会科学などの学際的・先端基礎科学的研究戦略で、分子、細胞、器官、個体、社会のレベルからアプローチします。

学域は四分野で構成され、①脳機能解析科学分野では、共感、愛などヒトや社会にとって重要なテーマに関する脳機能イメージング研究を、②神経再生科学分野では、ES/iPS細胞から神経系細胞への分化誘導と分化への外的要因の影響の研究を、③臨床神経科学分野では、筋強直性ジストロフィー1型、骨格筋Naチャンネル病の病態と遺伝子異常に関する研究を、④生体運動解析科学分野では、構造を保持した筋細胞における収縮装置構造・機能連関に関する研究を行います。教育・研究を推進するために、他の学域などと柔軟で有機的な連携を行うほか、連携大学院である東京都医学研究機構や東京都老人総合研究所などにおける最先端・総合的研究基盤を活用して、学際的・先端基礎科学的な研究・学問領域の高度な研究者・教育者、広い学識と高度な研究能力を有する実践的専門家を養成します。



我が子が母親を求めて泣いている時の母親の脳活動 (fMRI)

ヘルスプロモーションサイエンス学域



動作解析装置を用いた実験の様子

ヘルスプロモーションサイエンス学域は、健康の保持増進に関する基礎および応用研究を通して、人間と健康についての専門的知識と高度な課題解決能力を身につけることを目的とします。さらに、自身の専門分野だけでなく、異なる専門分野とのコミュニケーションもとれる自立した研究者および幅広い学識を有する高度専門家を育成します。人間と健康に関する諸問題には極めて複雑な背景が存在し、その問題解決には様々な分野からの学際的な検討による全体像の把握、構成因子の作用機序の解明、因果関係の理解が必要です。本学域は、「適応科学」「行動科学」「栄養・食品科学」の3分野から構成され、それぞれの教員が有する博士号(専門性)は、医学、農学、心理学、体育科学、スポーツ医学など多岐にわたっており、専門分野の異なる研究者が個々の切り口から健康科学・人間科学の新たな展開を創造・推進しています。

専門職の国際化を目指して

TOPICS

学部教育において行っている英国のUniversity of Southampton や St George's University of Londonとの医療連携教育に関する研究・教育交流を大学院にも広げています。さらに昨年度は、Oxford Brookes University から教員を迎えて大学院生を対象とした特別講義を行ったり、作業療法科学域の教員と大学院生が英国の授業に参加し、教員は教育方法について、学生は平素とは異なる視点からそれぞれが専門分野について学ぶ機会をつくりました。

欧米だけでなく、東京都も推進しているアジア諸国との連携方針をふまえ、アジアにおける協定校を増やし、研究・教育交流を深めています。今年度は、台湾台中市にある中臺科技大学との協定を2010年12月28日に締結しました。また、放射線科学域の教員が同年11月に中臺科技大学において特別講義を通じて学生と議論を交わすなどの交流を行っており、その一環で2011年1月には中臺科技大学から2人の教授を本学に招いて、放射線科学の特別講義を実施し、本学学生との交流も深めています。〈写真1〉



〈写真1〉

さらに、2011年1月19日には、中華人民共和国の武漢大学HOPE看護学院長と看護学教員が来日し、国際交流協定の締結・調印および本学看護教員との教育・研究交流を行いました。武漢大学の健康福祉学部とはすでに協定を結び、学生を受け入れています。医療系は、その資格が各国独自である関係から、国際交流や学生交換は盛んではありませんでしたが、最近では活発に教員や学生が行き来するようになってきています。〈写真2〉

基礎的な医学研究を含めた健康に関する研究も活発に行われています。脳機能イメージング研究が国際的に高く評価され、ヒトES細胞を神経細胞だけに分化させるなどの成果も得ました。筋チャンネル病の診断指針作成を進めています。さらに、Harvard University医学部との共同研究により、糖尿病の予防・治療に新たな可能性を提供する研究の最終成果が、また、脳神経科学のメッカであるスペイン・カハール

研究所との共同研究によりアルツハイマー病予防の手がかりとなる研究成果が得られ、いずれも世界トップクラスの論文誌に発表され、非常に高い評価を得ています。

学会などにおける受賞に関しても、日本理学療法学会大会優秀賞、日本生理人類学会優秀発表賞、日本生理人類学会奨励賞、日本保健科学学会優秀賞、日本保健科学学会奨励賞などを学生が受賞しています。



〈写真2〉



博士前期課程 修了生進路情報

(2009年度修了生実績)

研究科名	専攻/学域 ^{*1}	修了者数	進学	就職	現職継続	現職継続・進学	その他	主な就職先
人文科学研究科	社会行動学専攻	13	10	2			1	TAN-EI-SYA など
	人間科学専攻	20	7	8	3		2	時事通信社、アイケイコーポレーション、カインズ、大妻女子大学、法務省、埼玉県庁、相模原市役所 など
	文化基礎論専攻	6	1	4			1	ゆうちょ銀行、トラジ、ぎょうせい、タップ
	文化関係論専攻	4	2	1			1	インフォテック
社会科学研究科	法学政治学専攻	4	1	1			2	カインズ
	経営学専攻	37		4	24	4	5	野村総合研究所、コマツ(小松製作所)、ヤマハリビングテック、慶應義塾高等学校
理工学研究科	数理情報科学専攻	18	2	13			3	サンブラント、リコー、JALインフォテック、三井住友海上きらめき生命保険、アメリカンホーム保険会社、トッパン・マルテック、メディアシーク、大日本印刷、沖通信システム、早稲田中学校・高等学校 など
	物理学専攻	27	8	18			1	リコー、日本原子力研究開発機構、本田技研工業、凸版印刷、エースセミナー、アドバンテスト、NTTエレクトロニクス、富士テクニカルリサーチ、プリテック、高エネルギー加速器研究機構、野村総合研究所、キヤノンITソリューションズ など
	分子物質化学専攻	30	6	22			2	日本メナード化粧品、トヨタ自動車、日立化成工業、コーセー、日本食品分析センター、協友アグリ、リコー、関西ペイント、シマノ、日立化成工業、教員(神奈川県) など
	生命科学専攻	37	8	23	1		5	総合環境分析、明治乳業、インターナショナルホームメディカル、新日鉄ソリューションズ、アツクコーポレーション、コスモ・ウェア、船井総合研究所、東京応化工業、農林水産省、教員(東京都) など
	電気電子工学専攻	29	1	28				パナソニック、JR東海、JR東日本、JR西日本、東京電力、中部電力、キヤノン、電源開発、デンソー、三菱電機、シズン時計、東洋テクニカ、成田国際空港、農中情報システム、日本鉄道電気設計、大成建設、ソニーグローバルソリューションズ など
	機械工学専攻	29		29				本田技研工業、IHI、JR東日本、東芝、住友重機械工業、ヤマハ発動機、三菱重工業、カワサキプラントシステムズ、ジャル エクスプレス、トヨタ自動車、三洋電機、クボタ、JUKI、三菱鉛筆、マツダ、JFEスチール、国際石油開発帝石 など
	地理環境科学域	14	2	10			2	建設技術研究所、前澤化成工業、日立物流、東京カートグラフィック、基礎地盤コンサルタンツ、TOKAI、大和総研、オーエンス、川口市科学館、山梨県庁
都市環境科学研究科	都市基盤環境学域	25	1	23			1	大成建設、清水建設、鹿島建設、戸田建設、首都高速道路、JR西日本、長谷工コーポレーション、国際石油開発帝石、東京電力、みなどみらい二十一熱供給、ジェイアール東日本コンサルタンツ、京王電鉄、東京都庁、横浜市役所、川崎市役所 など
	建築学域	38		32			6	三井ホーム、大和ハウス工業、NTTファシリティーズ、日本設計、梓設計、ビルディングランドスケープ一級建築士事務所、水谷俊博建設設計事務所、石本建築事務所、大成建設、清水建設、戸田建設、大林組、住宅保証機構、森トラスト、乃村工務社 など
	都市システム科学域	10	1	6	2	1		アイテック、オリエンタルコンサルタンツ、BMLフード・サイエンス、三菱UFJ信託銀行、足立区役所、那須塩原市役所
	分子応用化学域	42	2	39			1	花王、凸版印刷、キヤノン、本田技研工業、日立化成工業、富士フィルム、クレハ、ユシロ化学工業、高砂香料工業、横浜ゴム、昭和インク工業、ポリマテック、クリハラント、テルモ、東京ガス、ジーエルサイエンス、AGCセラミックス、ゼブラ、ボッシュ など
	観光科学域	15	2	9	3		1	計量計画研究所、JR東日本、イオンリテール、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、ジェイアール東日本ビルテック、パシフィックコンサルタンツ、グローバル・ホテルグループ、イーホテル東新宿、ぐるなび、JTB首都圏
システムデザイン研究科	ヒューマンメカトロニクスシステム学域	39	4	35				本田技研工業、三菱重工業、住友重機械工業、日立製作所、マブチモーター、オリンパス、コニカミノルタオプト、富士ゼロックス、富士通、安川電機、リコー、凸版印刷、大日本印刷、KDDI、東京電力、中部電力、JR東海、JR東日本、野村総合研究所 など
	情報通信システム学域	24		24				NTT東日本、NTTソフトウェア、NTTデータ、NTTコムウェア、日立情報システムズ、富士通システムソリューションズ、伊藤忠テクノソリューションズ、三菱電機エンジニアリング、日本ビューレット・パッカード、ソニー、シャープ、リコー、ミクシィ、カカコム など
	航空宇宙システム工学域	33	2	30			1	YKK、三菱重工業、日本製鋼所、IHI、成田国際空港、リコー、エム・エイチ・アイ・ターボテクノ、JFEエンジニアリング、ソニー、SANKYO、デンソー、トヨタ自動車、本田技研工業、菱友システムズ、ヤマハ発動機、日本車輜製造、三菱商事マシナリ、石油資源開発 など
	経営システムデザイン学域	28		26	1		1	本田技研工業、JR東日本、全日本空輸(ANA)、プリテック、KDDI、NTTデータ、デンソー、京セラミタ、NECソフト、富士通、野村総合研究所、大和総研、みずほ情報総研、住商情報システム、東日本高速道路、日本航空電子工業、林テレンプ など
	インダストリアルアート学域	0 ^{*2}						
人間健康科学研究科	看護科学域	5	2	2	1			聖路加国際病院、鎌倉訪問看護ステーション
	理学療法科学域	9		2	4	3		つくば国際大学
	作業療法科学域	8	1		4	3		
	放射線科学域	14	3	4	7			国際医療福祉大学、国立がんセンター中央病院、東邦大学医療センター大橋病院、東京医科大学病院
	フロンティアヘルスサイエンス学域	6	2	2		2		ウェルネス など
ヘルスプロモーションサイエンス学域	2	1	1				雪印乳業	

*1. 現在の名称で記載しています。 *2. インダストリアルアート学域は、2010年度開設のため修了実績はありません。

博士後期課程 修了生進路情報

(2009年度修了生実績)

研究科名	専攻/学域 ^{*1}	修了者数	就職	現職継続	現職継続・進学	その他	主な就職先
人文科学研究科	社会行動学専攻	1				1	
	人間科学専攻	2	1			1	高砂香料工業
	文化基礎論専攻						
社会科学研究科	文化関係論専攻						
	法学政治学専攻						
理工学研究科	経営学専攻	1				1	
	数理情報科学専攻	6	4			2	日本学術振興会、楽天 など
	物理学専攻	7	4			3	電気通信大学、金沢大学、文部科学省 など
	分子物質化学専攻	5	4	1			首都大学東京、早稲田大学、University of Goteborg、マックス・プランク研究所
	生命科学専攻	6	6				首都大学東京、理化学研究所、ネバダ大学 など
都市環境科学研究科	電気電子工学専攻						
	機械工学専攻	5	1	3		1	ハノイ工科大学
	地理環境科学域	1				1	
	都市基盤環境学域	8	1	6		1	大林組
	建築学域	3		3			
	都市システム科学域	1				1	
	分子応用化学域	2	1	1			日本ケミコン
システムデザイン研究科	観光科学域						
	ヒューマンメカトロニクスシステム学域	2	2				首都大学東京、東京大学先端科学技術研究所
	情報通信システム学域	5	1	3		1	東京工業大学
	航空宇宙システム工学域	1		1			
人間健康科学研究科	経営システムデザイン学域	0 ^{*2}					
	看護科学域						
	理学療法科学域	2		1		1	
	作業療法科学域	1				1	
	放射線科学域	3		3			
	フロンティアヘルスサイエンス学域						
ヘルスプロモーションサイエンス学域	1	1				華中師範大学	

*1. 現在の名称で記載しています。 *2. インダストリアルアート学域は、2010年度開設のため修了実績はありません。

専門職学位課程 修了生進路情報

(2009年度修了生実績)

研究科名	専攻/学域	修了者数	就職	現職継続	現職継続・進学	その他	主な就職先
社会科学研究科	法曹養成専攻	65				65 ^{*3}	

*3. 司法試験準備



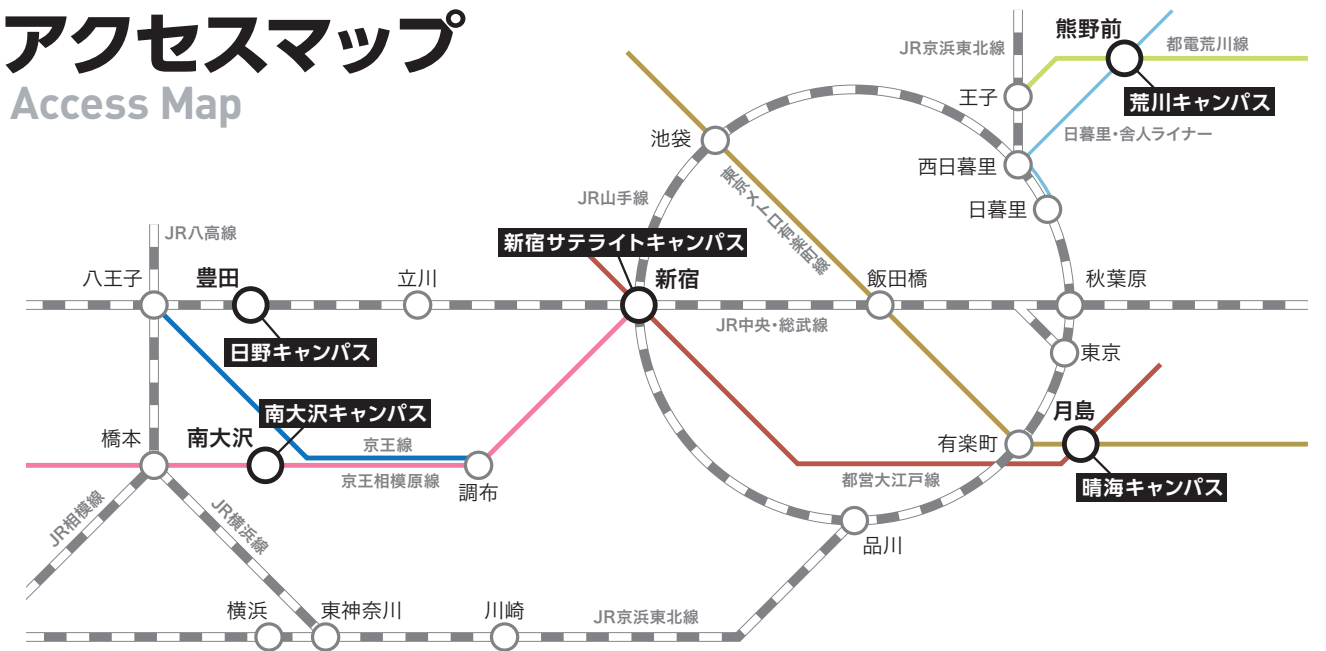
平成24年度大学院選考日程

(平成23年6月1日現在)

研究科名	課程	区分	出願期間	選考日	合格発表	問い合わせ先
人文科学研究科	博士前期課程	9月試験	8/15~19	9/23,24	10/6	文系学務課 人文・社会系教務係 ☎042-677-2053
		2月試験	1/6~12	2/17,18	2/29	
	博士後期課程		1/6~12	2/18,19	2/29	
社会科学研究科	博士前期課程	一般選抜(9月入試)	郵送 8/15~19	9/12,13	10/3	文系学務課 法学系教務係 ☎042-677-2253
		外国人実務家特別入試	郵送 8/15~19	9/13	10/3	
		一般選抜(2月入試) (経営学専攻のみ)	郵送 1/16~20	2/14	3/5	
		外国人特別選抜	郵送 1/16~20	2/14	3/5	
	博士後期課程		郵送 1/16~20	2/14	3/5	
社会科学研究科 (法曹養成専攻)	専門職学位課程	2年履修課程	未定	未定	未定	文系学務課 法曹養成専攻担当 ☎03-3536-7756
		3年履修課程	未定	未定	未定	
社会科学研究科 (ビジネススクール)	博士前期課程	一般選抜(前期)	郵送 9/12~16 持参 9/20,21	10/15	11/18	文系学務課 経営学系教務係 ☎042-677-2303
		一般選抜(後期)	郵送 1/9~13 持参 1/16,17	2/18	3/5	
		特別選抜 (公共経営)	郵送 1/9~13 持参 1/16,17	2/18	3/5	
理工学研究科	博士前期課程	夏季試験	郵送 8/5~8/11	9/6,7	9/14	理系学務課 理工学系教務係 ☎042-677-2444
		冬季試験	郵送 1/16~20	2/13,14	2/21	
	博士後期課程		郵送 1/3~10 持参 1/11	1/31	2/8	
		平成23年10月入学 (社会人・外国人学生)	郵送 8/5~11	9/5	9/14	
都市環境科学研究科	博士前期課程	夏季試験 (分子応用化学域)	7/4~8	7/28,29	8/12	理系学務課 都市環境学部教務係 ☎042-677-2694
		夏季試験 (地理環境科学域・ 都市基盤環境学域・ 建築学域・ 都市システム科学域・ 観光科学域)	7/18~22	地理環境 8/10,11 都市基盤 8/9,10 建築 8/9,10 都市システム 8/10,11 観光 8/10,11	8/24	
		冬季試験	1/16~20	地理環境 2/8 都市基盤 2/9 都市システム (外国人特別) 2/8,9 分子応用 2/9,10 観光 2/8	2/20	
	博士後期課程	夏季試験 (分子応用化学域)	7/4~8	7/28,29	8/12	
		冬季試験	1/16~20	地理環境 2/9 都市基盤 2/8 建築 2/9,10 都市システム 2/8,9 分子応用 2/9 観光 2/9	2/20	
		秋季入学試験 (平成23年10月入学) (分子応用化学域)	7/4~8	7/28,29	8/12	
		秋季入学試験 (平成23年10月入学) (地理環境科学域・ 都市基盤環境学域・ 建築学域・ 都市システム科学域・ 観光科学域)	7/18~22	地理環境 8/10 都市基盤 8/10 建築 8/9,10 都市システム 8/10,11 観光 8/10	8/24	
システムデザイン研究科	博士前期課程	夏季募集	7/11~14	8/4,5	8/12	日野キャンパス 管理部学務課教務係 ☎042-585-8613
		冬季募集	1/5,6	1/27	2/3	
	博士後期課程	夏季募集	7/11~14	8/5	8/12	
		冬季募集	1/5,6	1/27	2/3	
	平成23年10月入学	5/16~20	6/10	6/17		
人間健康科学研究科	博士前期課程	9月入試	8/11~17	9/2	9/15	荒川キャンパス 管理部学務課教務係 ☎03-3819-7124
		1月入試	12/16~21	1/28	2/9	
	博士後期課程	9月入試	8/11~17	9/2	9/15	
		1月入試	12/16~21	1/28	2/9	

*詳細は必ず募集要項で確認願います。

アクセスマップ Access Map



南大沢キャンパス

- 人文科学研究科
- 社会科学研究科
- 理工学研究科
- 都市環境科学研究科
- 人間健康科学研究科
(ヘルスプロモーションサイエンス学域)



所在地
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
TEL.042-677-1111 (代表)

アクセス
京王相模原線「南大沢」駅、改札口から徒歩5分
※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

日野キャンパス

- システムデザイン研究科



所在地
〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6
TEL.042-585-8606

アクセス
【JR】中央線「豊田」(北口)から徒歩約20分。
または京王バス「平山工業団地循環」乗車(約10分)、「旭が丘中央公園」下車徒歩約5分
中央線「八王子」(北口)から京王バス「日野駅行き」または「豊田駅北口行き」乗車(約15~30分)、「大和田坂上」下車徒歩約10分
八高線「北八王子」駅から徒歩約15分
【京王線】「京王八王子」駅(西口)から京王バス「日野駅行き」または「豊田駅北口行き」乗車(約10~25分)、「大和田坂上」下車徒歩約10分

荒川キャンパス

- 人間健康科学研究科
(ヘルスプロモーション
サイエンス学域を除く)



所在地
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10
TEL.03-3819-1211 (代表)

アクセス
日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分
都営荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分
JR「田端」駅から都バス端44系統「北千住駅行」乗車「首都大荒川キャンパス前」下車徒歩0分
JR常磐線、つくばエクスプレス、東京メトロ「北千住」駅から都バス端44系統「駒込病院前行」乗車「首都大荒川キャンパス前」下車徒歩0分

晴海キャンパス

- 法曹養成専攻
(ロースクール)



所在地
〒104-0053 東京都中央区晴海1-2-2
TEL.03-3536-7756 (代表)

アクセス
東京メトロ有楽町線・都営地下鉄大江戸線
「月島駅」下車10番出口 徒歩5分

新宿サテライトキャンパス

- 経営学専攻
(ビジネススクール)



所在地
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
都庁第一本庁舎26階
TEL.03-5321-1111 (代表)

アクセス
JR「新宿駅」西口から徒歩約10分
または、都営大江戸線「都庁前駅」下車徒歩0分

首都大学東京 2012 大学院案内

登録番号(23)6号

平成23年6月発行
編集・発行 公立大学法人首都大学東京 経営企画室 企画財務課
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
印刷 勝美印刷株式会社
〒112-0002
東京都文京区小石川1-3-7